

第 3 回基本計画審議会における傍聴者数と意見・感想

◇第 3 回審議会傍聴者数

		傍聴者数
会場	一般	4 人
オンライン	一般	10 人
	区職員	36 人
合計		50 人

※動画視聴回数（12月7日16時時点）：126回

◇傍聴者意見

(傍聴者 A)

(1) 各委員の発言に対する対応方法について

① 涌井委員の発言の「地区の社会的、自然的特性を生かした分析・課題検討・方針設定」は賛成であるため、これを明らかにする上での具体的な指標を次回第 4 回に案として提示して欲しい。

(2) 最終的な基本計画の構成（案）について

① 次回（第 4 回）の審議会にタキ台の内容（案）を出して頂くと有難い。（可能ならば）
（第 5 回が最終回との前提からの意見として）

(傍聴者 B)

○「参加と協働」の基本課題としての取組みが重要とのことだが、これまでの取組みについての評価を詳しく示していただければと思います。

—これに関して、様々な御意見がありましたが、できてること、できてないこと、新たな課題など、

○「教育」のテーマから、子供達の位置付けを「どまん中に」との考え方が紹介され、興味深く感じますが、同時に親世代への働きかけも、必要かと思いました。

○「取組の継続」も、キーワードのようでしたが、10 年に及び「継続力」をどのようにビルトインしていくのかを明文化する必要があるように思います。

○「地域特性に応じた計画」との表現について、その地域の住民が「自分のこと」という意識を持ちやすくなるでしょうし、手触り感のあるものを期待します。

○「基本計画策定の考え方」において、⑤持続可能な循環型社会がおかれているが、「環境」「温暖化」にかたまつた印象を受けました。SDGs は、貧困・格差等、多くの成長主義において、置き去りにされているものを回復する試みであり、全体の上位概念ではないでしょうか。

(傍聴者 C)

本日は傍聴させていただきありがとうございました。

中村先生の「子ども政策の部分に関しては遅れている部分があるのではないか」というご意見に同意いたします。また、汐見先生の「子どもたちも大人と同様に社会の中で生きている、支援されるだけではない子ども若者は今の社会の主人公として生きていかなくてはならない。」とのご発言をお聞きして、そもそも主人公であるはずの子どもにとって大事な「子どもの権利」が「子どもの最善の利益」という文言で大人によって侵害されているのではないかと、また、子どもは安心して意見を言える環境が整えられているのかということも改めて感じました。

ウェビナーでお聞きしたのですが、個人の発言で聞き取りにくいことがあったことと、発言される方は最初にお名前を言っていたら嬉しいですね。